

連盟国外伝道 働き人たちの祈りの課題

2018年10月

インドネシア

野口日宇満宣教師・野口佳奈宣教師

◎インドネシアの政治経済安定（19年4月大統領選挙）。諸教会の福音宣教の前進。◎大地震、津波被災者のために。◎ビザの継続更新（12月末）。神学校の教授ビザが早く許可されるように◎教会、神学校での働きのために十分なインドネシア語の習得。◎家族皆の霊性と健康。子どもたちの学びのために。送迎の運転が守られるように。



カンボジア

嶋田和幸宣教師・嶋田薫宣教師

◎CBU オフィス教会での日曜学校が祝福され、近隣の子どもたちに更に福音が届くように。
◎教会員と新来者が、イエス様をより深く知ることができるように。
◎和幸、薫宣教師共に、働きに必要な語学を習得できるように。
◎家族の健康が守られるように。



シンガポール

伊藤世里江アジア・ミッション・コーディネーター（IJCS 牧師）

◎アジアでキリスト教はまだマイノリティで偏見や迫害も強くあります。アジアの交わりの中で励ましあいながら、福音の前進に共に仕えることができるように。
◎来年1月にマレーシアのマラッカで開催されるABPF 宣教協議会を覚えて。福音理解について多面的に話し合えるように。
◎シンガポールでの日本人伝道が進められますように。新しい求道者、バプテスマ決心に導かれる人が与えられますように。



ルワンダ

佐々木和之国際ミッション・ボランティア

◎ルワンダで和解と共生の歩みを続ける人々に主が伴い続けてくださるように。◎ピアスの学生たちの豊かな学び。在校生と卒業生が平和の実現のために用いられるように。◎日本で学ぶ留学生たちを主が守ってくださるように。◎ピアスの働きを通し「平和のために働きたい」との祈りでつながった人々の輪がアフリカの国々、日本とアフリカの間で広がっていくように。◎紛争の絶えないアフリカ各地において平和のために労わられる方々の上に、主にある希望が絶えることのないように。

